

作陽短期大学

平成18年度第三者評価
機関別評価結果

平成19年3月22日

財団法人 短期大学基準協会

作陽短期大学の概要

設置者	学校法人 作陽学園
理事長	松田 英毅
学 長	松田 英毅
A L O	竹内 京子
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	岡山県倉敷市玉島長尾3524

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
音楽科		80
	合計	80

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
音楽専攻	10
合計	10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

作陽短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神に基づく教育目的・教育目標が明確で、点検と再確認が定期的に、また全学的に実施されており、その努力は充分評価される。

教育課程は、各専修の特色を重視しながら体系的に編成されている。授業やレッスンに関するさまざまな改善の取組みが、組織的に実施されている。

いずれの専修の学生に対しても最善の教育環境を整えようとする姿勢がみられる。最新の電子楽器や機材の導入、日本伝統芸能演習室やダンスレッスン室など、特色ある専修に対応した設備も充実している。

教育目標の達成に向けて多岐にわたる努力がなされている。また、卒業後の学生の多様な評価を集め、さらなる教育の改善に努めている。

入学に対する支援、組織的な学習支援、学生生活の支援体制、進路支援、多様な学生に対する支援のすべての項目にわたり、大きな問題点はなく、十分な支援体制が整備されている。

研究活動に問題はない。予算や研究環境も充たされている。これを多角的な教育方法の改善にも効果的に活用するのは、音楽系短期大学にとって一つの方向である。

社会に対する貢献を全学のグランド・ミッションと位置づけ、学生のボランティア活動としての演奏活動を奨励、支援している。併設大学と共同であるが、全学を挙げての社会的活動は非常に充実している。国際交流は併設大学が中心となって行っているが、短期大学にも毎年海外で研修を行う専修があるほか、海外への演奏旅行に参加した学生もいる。

学校法人については、理事長および監事の業務執行ならびに理事会、評議員会とも寄附行為に基づき適正に運営されている。短期大学は理事長・学長のリーダーシップの下、教授会ならびにこれに付置する各種委員会など規程に基づき適正に運営されており、学園一

本化の事務組織や、短期大学と大学との連携など効率的な組織運営が推進されている。また、法人、教員、事務職員の関係も良好で教職員に対するファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動の取組みなど就業環境にも配慮がなされており、円滑に運営されている。

平成15年度策定の中・長期計画に基づき、毎年度の事業計画および予算編成は適切に決定され、予算は経理諸規程に基づき適正に執行されている。また、財産目録および各種計算書類の作成、監事の監査、公認会計士による監査および私立学校法に基づく情報公開などについてもおおむね適切に実施されている。なお、施設・設備などの整備および管理状況も、同一キャンパスの大学部門との共用などで幅広い教育環境が提供されており、「諸施設管理運用規程」などの規程に基づき情報関係を含む有形・無形資産の管理も適切になされている。このほか、防災・防犯に対する危機管理体制も確立している。

自己点検・評価の規程が整備され、活動の実施体制は確立している。全学を挙げて改革・改善に取組み、現実とその成果をあげている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

仏教文化研究センターを設立して、建学の精神に対する、教職員の理解・実践を促進し、地域社会へ情報発信することなどに取組み始めている。

評価領域 教育の内容

全体に少人数のクラス編成になるよう配慮されている。「ソルフェージュ」の授業において習熟度別授業が行われ、単位取得率を高めるなど教育効果を上げている。

評価領域 教育の実施体制

810席を有する本格的音楽ホールは、学内施設として特記すべきである。ほかにパイプオルガンを備えた460席の多目的ホールと野外音楽堂がある。図書館は県内外の各図書館とも利用協定を結んでいる。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

優れた成績を修めた者のために「卒業演奏会」を、また、さらに優秀な者には「中四国新人演奏会」や「岡山新人演奏会」に出演させるなど、外部に向けた演奏活動の機会を積極的に準備している。

評価領域 学生支援

優秀な学生には奨学金制度、特待生制度、コンクール褒賞制度があり、演奏会出演の機会も与えられるなど、学生の意欲を高める配慮や支援が充分になされている。

個々の学生の学習面、生活面の状態に関する情報を学内で共有するシステムがあり、活用されている。学生の出身地の多い地域で保護者懇談会を開催し、この情報を活用している。

就職内定率について優れた実績をあげている。併設大学への編入学や専攻科入学者数も安定している。

評価領域 研究

紀要や「教育と研究」の発刊に加え、公開授業の実施による教育方法改善策の検討が行われ、研究環境が整備されている。

評価領域 社会的活動

地域に根ざした積極的な社会的活動が、演奏会、公開講座、市民参加のミュージカルなど多方面において全学的に展開され、優れた実績をあげている。

評価領域 管理運営

定期的に職員研修が行われているなど、SD活動を推進している。

情報公開についても学園報の発行ならびにウェブサイトへの掲載により対応している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域 学生支援

改善意見箱の有効活用など、学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するための努力が期待される。

課外活動において短期大学の学生が中心となって企画、運営するものが期待される。

評価領域 財務

消費支出超過額を計画的に解消することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域	教育の内容	合
評価領域	教育の実施体制	合
評価領域	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域	学生支援	合
評価領域	研究	合
評価領域	社会的活動	合
評価領域	管理運営	合
評価領域	財務	合
評価領域	改革・改善	合

評価領域 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

大乘仏教に基づく宗教的情操教育を建学の精神とし、人格形成を通して、人や社会のために力を尽くす「菩薩道を歩むプロの養成」理念が確立している。

知的で道徳的な精神に立脚した能力の開発を推進し、音楽の専門家の養成を目的とする教育目標が明確で、年度毎に重点目標を掲げて、定期的に見直しや点検を進めている。

目的達成のための教育目標をグランド・ミッションとして定め、新入生オリエンテーションでの説明や、レポートによる教職員間での相互確認、全教職員会議での再確認などを通して、全学的取組みが展開されている。

評価領域 教育の内容

建学の精神と教育理念を反映させた教育課程が編成されている。教養に関する科目では「宗教」と「教養基礎」がすべての専修に必修である。専門に関する科目では音楽という特殊性が反映され、個人指導による実技レッスンを含め、多くが実技科目と演習科目である。いずれの専修においても必修の割合が高く設定されており、主要な科目には専任教員が配置されていて、短期大学の教育課程として充実している。授業形態のバランス、必修・選択のバランス、選択科目の開設数、中学校教諭二種免許（音楽）など、学生の多様なニーズに応える教育課程となっている。

教育課程は、各専修の特色を重視しながら体系的に編成されている。授業やレッスンに関するさまざまな改善の取組みが、組織的に実施されている。

『講義概要』が毎年作成されており、各科目の授業内容、授業計画、使用テキスト、評価方法などが示されている。これは、新2年次生には3月末に配布されている。『学生便覧』にも専修別に卒業要件、履修条件などについて記載されているほか、履修指導も行われている。

FD活動は組織的に実施されている。各教員は毎年「重点目標記述および判定用紙」を提出し、冊子『教育と研究』には「教育に関する自己評価」の項目が設けられている。授業評価アンケートが全学的に実施され、授業とレッスンの公開も実現されている。

評価領域 教育の実施体制

教員数は短期大学設置基準に規定された数を充足し、いずれも短期大学の教員としてふさわしい資格と資質を有していると判断される。教員の採用、昇任についての規程も整備されている。

校地は、くらしき作陽大学と共用であるが、倉敷市の高等教育機関誘致用地であり、十分な広さと恵まれた自然環境をいかして整備されている。校舎面積も充分で、いずれの専修の学生に対しても最善の教育環境を整えようとする姿勢がみられる。最新の電子楽器や機材の導入、日本伝統芸能演習室やダンスレッスン室など、特色ある専修に対応した設備も充実している。パソコン室や図書館では、インターネット利用が可能である。校地と校舎にはバリアフリーや点字ブロックなど障害者に対する配慮がある。

十分な広さと所蔵量を有する図書館が整備されている。閲覧室には十分な座席数が確保され、個人閲覧室のほかグループ視聴室も用意されている。学外検索システムを整えているほか、学生の利用を活発にしようとする取組みが継続して行われている。

評価領域 教育目標の達成度と教育の効果

定期試験やその他の試験、出席状況、学習態度などにより総合的に成績評価をしており、適正に単位を認定している。専門科目においては個別指導や少人数教育により教育効果を上げると同時に評価も実施している。単位の認定状況は高く、学生の満足度も高い。退学者が約一割程度いるが妥当な範囲と思われる。退学の前に個別相談を実施するなど、きめ細やかに対応し、休退学低減にも組織的に取り組んでいる。また、資格取得や編入にも積極的に取り組んでいる。教員は学生アンケート結果を授業改善に反映させ、その内容を『教育と研究』に公表している。以上から総合的に見て、教育目標の達成への努力は充分にみられる。

教員、音楽講師、演奏家、音楽教室経営者、楽器店勤務といった専門職に就く者の合

計数の、卒業生数に占める割合は減少しているが、留学、進学の数合計の割合が大幅に上昇しており、総合的に見て専門職に就こうとする意欲は高い。「企業モニターアンケート」により卒業生の就職先からの意見を聴取したり、同窓会や卒業生と接触を持つ機会を設けるなど、総合的に判断して取組みの努力が十分にみとめられる。

評価領域 学生支援

短期大学案内には建学の精神などが明示されている。入試、広報が重視され、受験生ほかの問い合わせに充分応じられる体制をとっている。三種類の推薦入試と二種類の科目型入試を実施、採点や合否判定の方法に配慮し、多様な選抜が公正に行われるよう努めている。入学手続き者に対し授業や学生生活についての情報が十分に提供でき、入学者に対しても学習、学生生活のためのオリエンテーションが適切に行われている。

特に学習の動機づけに焦点をあてた学習や科目選択のための各種ガイダンスが適切に行われている。わかりやすい内容の学生便覧が配布されている。音楽の基礎学力不足の学生を指名し「音楽基礎理論」を履修させている。適切な指導助言を行う体制として担任制度を活用、さらに学生相談室、保健室、教育支援室の部署が相談を受け、指導に必要な情報を学科会議で共有し、組織的な支援を行っている。個人レッスン中心であるため、学生の進度に合わせた指導が可能である。優秀な学生には奨学金制度や特待生制度があり、演奏会出演の機会も与えられる。コンクール褒賞制度があり、学生の意欲を高めるための配慮や支援が充分になされている。

生活支援のための教職員の組織（学生委員会、教育支援室）が整備されているほか、欠席がちな学生を把握する「レッスン・授業・生活状況調査票」、学内と地方での計7回の保護者懇談会の実施があり、幅広く学生の生活支援に努めている。改善意見箱の有効活用など、学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するための努力が期待される。「レッスン・授業・生活状況調査票」の情報を保護者会でも活用するなど、連携にも努めている。キャンパス・アメニティへの配慮、宿舍、駐車駐輪場の設備は充分である。三種類の独自の奨学金制度がある。

就職支援のための教職員の組織および進路支援室が整備され、就職対策の支援は適切になされている。過去3年間の就職希望者の内定率は非常に高く、すぐれた実績をあげている。当該短期大学斡旋の率も高い。併設大学や専攻科への進学についても十分な支援がなされ、安定した実績がある。

社会人対象の科目など履修生・聴講生制度があり、聴講生の受け入れ実績がある。主要建物はバリアフリーであり、身障者用トイレ、視覚障害者用ガイドなど障害者を受け入れるための設備が整っている。

評価領域 研究

研究活動はおおむね充実されている。研究業績の公開や学外の基金、財団からの研究助成の受け入れなどにも対応している。なお、ほかの教員の公開授業を参観し、その成果を自分の教授技術の開発に役立てるといふ、教育のための研究にも取り組んでいることは高く評価に値する。

研究費および研究経費については妥当な水準にある。また『紀要』の発行や、演奏発表会などについての施設も整備され、各分野における研究室や機器、備品、図書などに関する研究環境は良好である。研修日を設けたり、授業がない時間を研究時間にあてるなど、研究時間の確保に努めている。

評価領域 社会的活動

地域に根ざした社会的活動が積極的に展開されている。大学と共同での活動として、教員と学生の演奏会、公開講座、市民参加によるミュージカルなどが積極的に行われている。

社会に対する貢献をグランド・ミッションと位置づけ、学生のボランティア活動としての依頼演奏活動を奨励、企画広報室が外部からの依頼に対応するなど、サポート体制も充実している。

一部の専修は毎年ニューヨークで研修を行っている。音楽学部がアメリカ、ロシアの大学と提携しており、平成17年度には3名の短期大学生が選ばれてアメリカへの演奏旅行に加わった。海外からの客員教授の公開レッスンを受ける可能性もある。

評価領域 管理運営

理事会および評議員会は寄附行為に基づき適切に開催され、監事の監査も適正に執行されている。理事長は、諮問機関として設置された「運営会議」の議長を務めるなど、適切なリーダーシップのもと、短期大学をはじめとし学園全体が運営されている。

理事長・学長のリーダーシップのもと、短期大学ならびに併設大学との連携により効率的な運営がなされている。また、教授会ならびに付随する各委員会なども学則に基づき適切に開催されており、教員と事務職員相互の理解を重視した体制で、円滑に運営されている。

事務組織は、「事務組織規程」に基づき法人全体を掌る組織として構成され、これにかかる施設設備など事務環境も適切に整備されており、事務諸規程などに基づき適正に運営されている。また、SD活動など事務職員の育成に対しても積極的に取り組み、適正な事務運営に配慮がなされている。

就業規則などは適正に整備されており、教職員に対する周知も適切になされている。

理事会、評議員会、各種委員会などにも教職員が適切に選出されており、法人、教員、事務職員はそれぞれお互いの立場を尊重しあい関係も良好で、適切な人事管理が実施されている。

評価領域 財務

毎年度の事業計画および予算は、規程ならびに平成15年度策定の中・長期計画に基づき適切な方法で決定されている。予算執行については、各種経理関係規程に基づき適正に執行されており、財産目録および各種計算書は適正に表示されている。監事と公認会計士の監査も適切に執行されており、情報公開についても学園報の発行ならびにウェブサイトへの掲載により対応している。

消費収入超過体質を維持してきたが、一時的に支出超過となったものの、多少の時間は要するが健全な収支に転換は可能であると判断する。また、教育研究経費比率は妥当な水準を維持している。

各種関係規程に基づき適切に施設設備の維持管理がなされており、一部自動化した防災・防犯対策、コンピュータシステムのセキュリティー強化など情報に対する管理など、大学部門を含むキャンパス全体で、有形・無形資産の管理、教育環境の維持・保全に取り組んでいる。

評価領域 改革・改善

寄附行為細則に基づき定期的に自己点検・評価を実施してきている。平成17年度からは「くらしき作陽大学・作陽短期大学自己点検・評価など実施要綱」を整備し実施している。過去3年間に実施された点検・評価の内容は、関係省庁、ほか大学、県下の高校、および教職員に配布するという方法で公開されている。

専任教員の全てがワーキンググループのメンバーになるなどの配慮をし、改革・改善内容を全員で共有する努力をしている。点検により明確になった問題点は、「改革会議」や「推進委員会」を通じて改善の方策が練られる。併設大学の音楽学部との比較、検討から、短期大学の存在意義を確認し、短期大学の活性化に成果を上げている。「音楽デザイン専修」や「日本伝統芸能専修」の設置にその成果が現れている。

平成12年度に呉大学短期大学部と相互評価を実施した。近年、相互評価は実施していないが、他大学の講師を招聘し意見を求めたり、外部のコーディネータを登用するなどの方法により、外部の意見聴取に取り組んでいる。平成17年度に定めた「くらしき作陽大学・作陽短期大学自己点検・評価など実施要綱」に、外部評価、相互評価についても規定されている。